

活については全く触れませんでした。アメリカの生活スタイルは職住接近ということもあって時間の使い方がとても優雅であり、本来人間とはかくあるべきだと痛感しました。アメリカの暮らしに感動し、近い将来留学したくなったことは言うまでもありません。ちなみに帰国後の筆者はアメリカの生活スタイルを真似して、18:00になったら帰宅するようにしましたのであります。

謝 辞

フロリダ州滞在中は萬納寺信崇さん、真理さん御夫妻に、ニュージャージー州滞在中は田中雅明さん、真理子さん御夫妻に何から何までお世話になりました。FSU では T. N. Krishnamurti 教授と S. E. Nicholson 教授および両研究室の皆さんにお世話になりました。また SS '93 については、農業環境技術研究所の山川修治博士と東京大学気候システム研究センターの松野太郎教授からコメントをいただきました。ここに記して皆さんに感謝したいと思います。

参 考 文 献

- Bultot, F. (ed.), 1971a: Atlas Climatologique du Bassin Congolais, 1, Publications de l'institut national pour l'etude Agronomique du Congo (I. N. É. A. C.).
- , 1971b: ——, 2, ——.
- , 1972: ——, 3, ——, ——1977: Atlas Climatologique du Bassin Zaïrois, 4, ——.
- 藤川典久, 1993: 1992年12月の大気大循環と世界の天候, 天気, 40, 124-125.
- 川真田正宏, 工藤達也, 高野 清治, 楠昌司, 山田真吾, 1992: ピナトゥポ火山噴火後の大気温度の変動, 気象学会1992年秋季大会講演予稿集, 62, pp 109.
- 隈健一, 1990: 若き気象庁職員の見たアメリカ, 天気, 37, 242-244.
- 隈健一, 1993: 気象庁全球モデルとアメリカを襲った爆弾低気圧, 気象, 37・5, 10-14.
- 松山洋, 1993 MS: 熱帯の大河川における流域水収支の季節変化, 東京大学大学院理学系研究科地理学専攻修士論文, 103P.
- 松山洋, 1993: アマゾン・アメリカ漫遊記 Part 1: 再びペルーアマゾンへ, 天気, 40, 印刷中.
- 松山洋, 沖大幹, 1992: GRDC (世界河川流量データセンター) とそのデータについて, 水文・水資源学会誌, 5-2, 65-70.
- 佐藤 薫, 1993: Young Meteorologist Network (ymnet) の紹介, 天気, 40, 482.
- Shinoda, M., 1989: Annual rainfall variability and its interhemispheric coherence in the semi-arid region of tropical Africa: Data updated to 1987, J. Meteor. Soc. Japan, 67, 555-564.
- Shinoda, M., 1990a: Long-term variability of the tropical African rainbelt and its relation to rainfall in the Sahel and northern Kalahari, J. Meteor. Soc. Japan, 68, 19-35.
- Shinoda, M., 1990b: Long-term Sahelian drought from the late 1960's to the mid-1980's and its relation to the atmospheric circulation, J. Meteor. Soc. Japan, 68, 613-624.
- 山川修治, 1992: 地球温暖化渦中の気象災害, 地理, 37-8, 31-41.

日本学術会議第16期会員候補者の選考対象者の募集 (公示)

学術会議会員候補者および推薦人の選考委員会

つきましては、会員候補者の選考対象者を募集します。自薦・他薦を問いません。応募者は下記の要領で届け出下さい。

記

1.届出事項

- ア) 応募者氏名、住所・連絡先 (住所と異なる場合) 日本学術会議会員歴、勤務機関および職名、最終学歴、学位、ならびに簡単な研究歴。
- イ) 他薦の場合は、推薦者氏名、(複数可)、連絡先ならびに被推薦者の承諾書。

2.宛先: 日本気象学会 事務局

〒100 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内

3.締切: 1994年1月20日 (木)

「日本学術会議第16期会員選出の手続きがすすまっています。日本気象学会は学術研究団体の登録を終え、関連研究連絡委員会は申請どおり「地球物理学」となりました。当学会としては、第16期会員候補者を選考し 1994年1月31日 (月) までに日本学術会議に届け出るようになります。

日本気象学会の会員候補者は「天気」34巻3号でお知らせした選考方法によって選出します。会員候補者が満たすべき要件は次のとおりです。

- (1) 5年以上の研究歴を有し、優れた研究または業績がある科学者であること。
- (2) 過去において、通じて9年を越えて日本学術会議会員であったことがないもの。
- (3) 日本国籍を有すること。